

令和5年度 川崎市総合教育会議
新しい川崎市学習状況調査について

個別最適な学びの実現に向けた
教育データの活用について

令和5年11月28日（火）



1 教育データの活用に向けて

1 教育データの活用に向けて

国の考え方

中央教育審議会

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）」（令和3年1月）抜粋

- ◆ 子供が「個別最適な学び」を進められるよう、（中略）**個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援**することや、**子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整**することができるよう促していくことが求められる。
- ◆ その際、**ICTの活用**により、**学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を蓄積・分析・利活用**することや、教師の負担を軽減することが重要



**学習者・教職員いずれの視点からも、
教育データの活用が大事**



1 教育データの活用に向けて

本市の状況

✓ 「かわさきGIGAスクール構想」を段階的に推進

かわさきGIGAスクール構想の進捗

R3年度	R4年度	R5年度	R6年度以降
ステップ0・1	ステップ2	ステップ3	
とにかく使ってみる	一人一人の学びをつなぐ	一人一人の子どもが主語の端末活用	
一斉 “いつでも”どの教科でも”使えることを実感する	一斉・協働 GIGA 端末を活用して友達と交流しながら学ぶ	一斉・協働・個別 自ら立てた課題を自らの方法で課題を解決し自己調整しながら学びを振り返る <u>個別最適な学びの実現</u>	

令和5年度以降は

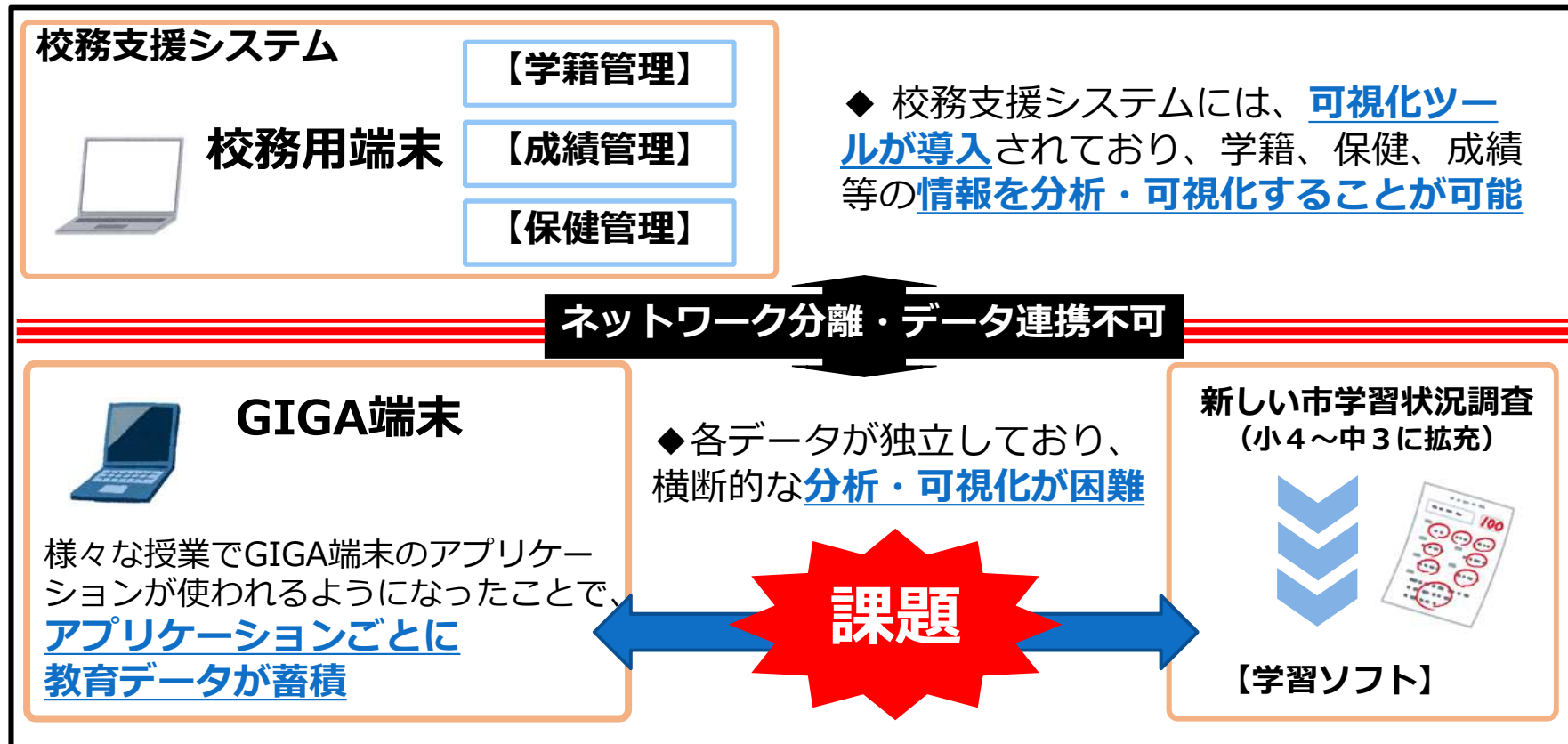
“ステップ3”

- 児童生徒
GIGA端末で自分の学習を振り返り、学びを自己調整
- 教職員
GIGA端末で児童生徒の学びの状況を把握し、個別の支援や授業改善

GIGA端末は、学習ソフトをはじめ、様々な授業でアプリケーションが活用され、教育データが蓄積

1 教育データの活用に向けて

教育データの活用における現状と課題



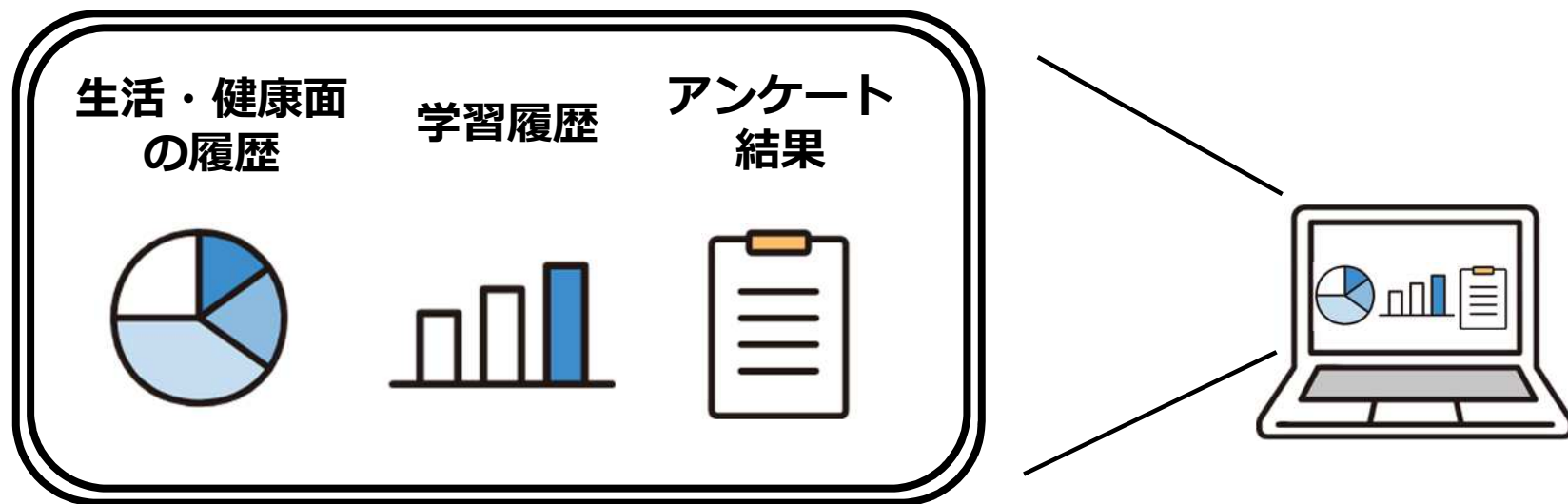
- ✓ 教育データの蓄積は進むが**分析・可視化が困難**
- ✓ 教職員の工夫によりデータの比較を行っており、**教職員の力量（業務負担）によるところが大きい。**

1 教育データの活用に向けて

課題の解決策

第1段階 アプリケーションごとに蓄積している教育データのうち、
GIGA端末上で活用（分析・可視化）するデータを整理

第2段階 教育データを分かりやすく一覧化できるシステムを構築



1 教育データの活用に向けて

教育委員会の考え方（1/2）

個別最適な学び を実現するには、

教職員の力量 や 経験

×

客観的な根拠 としての 教育データ の活用

教育委員会の考え方 (2/2)

蓄積された教育データを客観的根拠として

- ✓ 児童生徒は、皆と同じことではなく、一人ひとりが、自分の興味関心や自分の学習状況に応じて学ぶ。
- ✓ 教職員は、子どもたちが社会の変化に対応していくにはどのような力をどのように育てていくべきか、指導内容や指導方法を追求していく。

ポイント

一部の教職員や学校が、先進的な取組をするのではなく、川崎の教職員全員が、自らの意識を変容して、授業を変えていく必要がある。

2 今後の方向性

教育データ活用の視点（1/4）

児童生徒

日々の学習の振り返りや市学習状況調査の結果が、即時的にGIGA端末に表示されるようになり、自身の苦手分野や得意分野、経年の自身の学びの進捗状況などが確認できれば…



期待される効果

- ◆ 自分の学びを客観的に把握でき、苦手な部分を学び直したり、得意分野を伸ばすことができる。

教育データ活用の視点（2/4）

教職員

担任する学級のみならず、他の学級の児童生徒のスタディ・ログ、GIGA端末の活用状況等とともに心や体の状態の変化（SOS）を確認することができれば…



期待される効果

- ◆ 客観的なデータに基づいて、教職員の間で児童生徒一人ひとりの状況を把握・情報を共有し、指導することができる。
- ◆ 学習の理解度等に応じた授業改善や、心や体の状態の機微な変化を速やかに察知し、組織として支援ができる。

教育データ活用の視点（3/4）

保護者

子どもと日々の学習や生活の振り返りを共有するとともに、教職員から、面談等の際に客観的なデータを用いた納得性の高い説明を受けられることができれば…



期待される効果

- ◆ 自分の子どもの学習の様子が客観的に分かり、安心できる。
- ◆ 子ども、教職員、保護者で、同じデータをもとに、学習状況を共通理解し、家庭での学習に活用できる。

教育データ活用の視点（4/4）

教育委員会

学校単位でGIGA端末の活用状況等を把握するとともに、児童生徒が、指定した言葉（「自殺」や「薬」等）を検索した際にアラートが検知できれば…



期待される効果

- ◆ 各学校の端末やアプリケーションの活用状況をリアルタイムで把握し、利用促進に向けた支援等につなげることができる。
- ◆ 指定した検索ワード（「自殺」や「薬」等）を検知し、速やかに学校に情報提供や支援を促すことができる。

2 今後の方向性

活用が望まれる教育データ

主体	活用が望まれる教育データ	主なねらい
児童生徒	○自分の学習時間や振り返り等のスタディ・ログ ○自分の心や体の状態の変化	自らの振り返りに活用
教職員	○児童生徒の学習時間や振り返り等のスタディ・ログ ○児童生徒の心や体の状態の変化 ○児童生徒の端末やアプリケーションの活用状況	個に応じた指導
保護者	○児童生徒の学習時間や振り返り等のスタディ・ログ ○児童生徒の心や体の状態の変化	子どもの状況を共通理解
教育委員会	○各学校の端末やアプリケーションの活用状況 ○指定した検索ワード等（「自殺」や「薬」等）の履歴	客観的なデータに基づく学校支援